

第14回

あたたかいふるさとづくり研修大会

1月25日(火) 日置農村環境改善センター

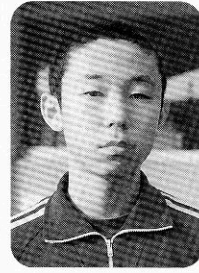


「過る1月25日に、改善センターにおいて「第14回あたたかいふるさとづくり研修大会」が開催されましたが、大会の中で町内の各学校から4名の方の意見発表がありました。その中から、今回2名の方の意見発表を紹介します。」

「いじめをなくそう」

日置中三年

岡 武志



「いじめ」という行為が、世の中にあつていいものでしょうか。いじめは生活上あつてはならないものです。最近では、無視をするなど、精神的なものだけでなく、特定の一人に対して集団で暴力をふるうなどしてけがを負わせるばかりか、時には生命をうばってしまうこともあります。

暴力をふるうことは、絶対にいいことではありません。無視をするのも、精神的に傷をつけているのと同じなので、これも許されないことです。

少し前までは、いじめに対していじめられる方が悪い、という一方的な考えしか持っていませんでしたが、いろいろと考えているうちに、いじめられる側にも問題はあつたのではないかと、という別の考えも生まれてきま

▲講演

した。そんな折、昨年一月、山形県新庄市内の中学校で、当時中一の生徒が上級生ら七人にマットに巻かれて殺される、という事件が起きました。僕は大きな衝撃を受けました。しかし、もっと驚かされたのは、数か月後のある雑誌記事でした。その記事は、例のいじめ事件に対する読者の意見を取り扱ったものでした。その中に、「いじめられる方は性格が悪い。いじめられる方の意見はだいたい正しいのだからいじめられて当然。」という内容の意見がありました。僕はこの意見に対し、強い反発を抱きました。確かにその頃も、いじめられる側にも問題はあつた、という考えはありました。でも、「いじめられて当然。」ということは、口で言っただけなら、いじめられてもいい、と言っているように感じられます。暴力で訴えるやり方には、僕は賛成できません。

それに、七対一はどう考えても卑怯です。決着をつけたいのなら、一対一で正々堂々とやってほしいのです。

学校や家庭など、周囲の反応の冷たさにはあきれます。「あの子がそんなことをするなんて……。」といった発言を耳にします。いじめている生徒もまさか先生

など大人の前でいじめをするとはなないでしょう。そうはしなくても、それに似た行為の一つは出るはずなので、それに気付くことが大切だと思います。

文部省がまとめた統計によると、全国の公立の小・中・高校から報告されたいじめの件数は平成二年度は昭和六十年の六分の一弱と、数は減ってきています。しかし、質は年毎に悪質化してきています。いじめをゼロにするには無理だとしても

「心あたたまるふれあい活動」

日置小六年

熊野利恵



昨年の十二月四日に、日置小の学校の学習会でとれたお米で、もちつき集会を行いました。もちをついたり、丸めたりと、私たちには、やったことのないことばかりでした。

おもちをつく時、手伝いに来

大部分をなくすことは可能だと思います。そのためには、いじめに関わっている本人、学校、家庭の三つでよく話し合うことが必要です。決して放っておくようなことをしてはいけません。僕の回りでは、特に、目立っていないのは見つからないけど、ささいなこと做起りうるのですから、日頃の心がけが必要だと思います。山形県の一人の少年の死を、決して無駄にすることはできません。

て下さったおじいさん、おばあさんを見ると、何をやっても、とても速くて簡単そうだったけれど、いざ自分がやるとなるときは重くて、おじいさんたちのようにうまくつけませんでした。あんこをおもちで包む時もねばねばのおもちをひよいひよいと同じ大きさにちぎり、あんがはみ出さないように、きれいなもちでいくおばあさんたちのすばらしい技に驚きました。

集会が終わると、高学年の人は、地区の一人暮らしのお年寄りへ、みんなで行ったおもちを届けに行きました。だけど、昼かなので、ほとんどの人がお留守でした。だから、一応わかりやすい所に置いておいたけど少し心配でした。